

「水との共生社会」

沖縄県 糸満市立高嶺中学校三年 沖田 椿

「水」というワードを聞いた時みんなは何を思い浮かべるだろうか。私は、身の周りでの水を挙げる。しかし、最近新聞を読んでいた父が「バーチャルウォーターって知っているか？」と私達兄弟に聞きました。私には、高校生の兄と大学生の姉がいますが二人は「聞いたことはあるけど知らない」と答えました。バーチャルウォーター。私は初めて耳にしました。

気になって調べてみるとバーチャルウォーターとは、輸入した物を仮に自国で生産するとしたら、どれくらいの水が必要になるかその水の量を予測した物と書いています。私達の国、日本は食料自給率が低くほぼ輸入に頼って生活しています。海外から輸入した小麦や野菜などの農産物や肉などの畜産物には育てるために相当量の水が使われていて、その水も一緒に輸入していることになり、直接的に水も輸入していなくても無意識に世界の水を使っている事になります。

例えば、私が毎朝食べている食パンで考えると、一斤の食パンを作るのに必要な水は約五百リットルだそうです。そう考えると、鳥肌が立ちます。そうした時にある疑問が浮かびました。私一人で少しの量を食べるのにこんなにたくさんの水が使われている、それが世界で行われているとしたら水は無くならないのかという疑問です。すぐに調べてみるとやはり水には限度があつて、地球の表面は約八割が水と言われているが、飲み水などに使用できるのは地球上にある水のわずか〇・〇一パーセントしかないそうです。もちろん、バーチャルウォーターだけで水を使っているわけではないのはあたり前で、家庭での水の使い方は、洗濯、炊事、トイレやお風呂全て水は必要不可欠です。水不足はそんなに未来の問題ではありません。他の国では、雨があまり降らない環境下ですでに水不足の国があります。日本は、そんな国からバーチャルウォーターを

得ているかもしれない。バーチャルウォーターの輸入国のデータを見てみるとその多くは先進国だそうです。輸出国の水を利用しているため、その国の水問題を悪化させてしまう可能性が出てきます。日本は、降水量が多く、水道水の水質が高い好環境にあります。しかし、安全な水を飲めない環境でも、生きるために作物や畜産物を作り輸出しなければならぬ人達からバーチャルウォーターを得ているかもしれないという事実があります。

水問題は、SDGs 持続可能な開発目標に「安全な水とトイレを世界中に」と上げられていて、私はバーチャルウォーターは世界の水問題に深く関わっていると改めて思いました。私達日本は安全な水とトイレを確保できているため、他の国を助けなければならないと思います。それには、バーチャルウォーターを少なくしなければなりません。輸入品を少なくするには、食料自給率を上げ、地産地消に力を入れるのが大事だと改めて確信しました。食料自給率の高いお米や魚を日頃の食事に定期的に食事に入れる事も少しは力になれると思います。

このように考えていくと、私達人間にとつて、水は生きていく上で必要なものです。水は、生命の源だとよく聞きます。地球上に生物が存在するのは、水が液体として大量に存在する恩恵だともいえます。また、私達の体の六割から七割は、水だそうです。そのことも含め私は、生命の源である水について考え、水を大切にしていきたいと思えます。また同時に、今後は水との共生社会を築いていくべきだと思えます。